

第29回アメリカ史研究者夏期セミナー

日時:2004年9月18日(土)、19日(日)

場所:東京都国立市中2-1

一橋大学東キャンパス 東2号館2201教室

9月18日(土)

9:00～ 受付開始

自由論題報告 9:30～12:00

司会:中野耕太郎(大阪市立大学)

報告(1)朝立康太郎(東北大学大学院)

「南北戦争期メリーランド州における奴隷制廃止—1864年州憲法制定会議を中心に—」

報告(2)澤田剛(専修大学大学院)

「エマ・ゴールドマンのセクシュアリティ観形成」

報告(3)武井寛(一橋大学大学院)

「人種統合と＜共同体の暴力＞の間で—シカゴ公営住宅局行政長官エリザベス・ウッドの闘い—」

報告(4)小川裕子(東京大学大学院)

「アメリカ対外援助政策の転換～1970年代前半における「人道的」国際開発計画の成立～」

12:00 昼食休憩

シンポジウム1 「ジェンダー—歴史学の新天地」 13:30～16:00

ジョン・スコットやジュディス・バトラーらの仕事を経て、今日、ジェンダー研究は歴史学研究の方法の最前線の一角を担っている。ただしこの「方法」を歴史の現場から丹念に洗い直す必要はいよいよ増しているように思われる。このシンポジウムでは、歴史の現場で作動してきたアメリカ社会の「ジェンダー」の政治力学を、それぞれに異なる時代状況において検証し研究されてきた3名の報告者をお招きして、ジェンダーと歴史学の方法の展開と可能性を考えてみたい。第一報告の野々村淑子氏は、テキストに即して丁寧に読み直す作業を通して、アメリカ合衆国建国期の母言説の構造と展開とを再検証してきた。ジェンダーという分析枠組みあるいはアメリカ史の枠からも踏み出して、報告ではイギリス社会史との接合が試される。また、第二報告の田中景氏は、日系人コミュニティの写真花嫁をめぐる史料を洗いなおしながら、中産階級による下層民管理といった単純な図式におさまらない、重層的なダイナミズムに迫る。最後の佐藤千登勢氏の報告では、経済的市民権にジェンダーの区別が書き込まれていく様子が追跡され、進境著しい1930年代を画期とする福祉国家論の研究史に新たな視座の提供を試みる。いわば私から公、家庭から政治まで拡散するようで、実はその基層に流れているジェンダーの問題をいま一度、具体的な相と手法とにおいて問い直そうというのが本シンポジウムの狙いである。

報告者

野々村 淑子（九州大学）

「英米における「産む性」の創出と母親像/女性像の転回―母役割言説の系譜を通して―」

田中 景（新潟県立短期大学）

「20世紀初頭の日本人移民の「写真結婚」―写真の利用と移民女性のイメージ―」

佐藤 千登勢（筑波大学）

「経済的市民権とジェンダ ―「アメリカ型」福祉国家の形成を事例として―」

司会: 松原宏之（横浜国立大学）

コメンテーター: 高橋裕子（津田塾大学）

日本アメリカ史学会設立総会

16:15～ 東キャンパス2号館2201教室

懇親会

18:30～ 会場: 東キャンパス マーキュリー・タワー最上階 マーキュリー・ホール

9月19日(日)

シンポジウム 2 「ナショナリズム・アメリカニズム・公共性」 10:00～12:30

ここ数年、アメリカ研究の分野において、合衆国の国境内部と外部とを同時に貫き作用してゆくような運動・理念としてのアメリカニゼーション・アメリカニズムについて、研究が盛んにおこなわれ、その成果が発表されてきている。そこには、多文化主義をめぐる論争、冷戦終結後の合衆国の覇権国化といった現実の動きに少なからぬ影響をうけながら、アメリカ像、アメリカ史観を再構築してゆこうという研究者の姿勢が見て取れよう。私たちもこの姿勢を共有し、アメリカ合衆国のナショナリズムと公共性について、両者の関係に着目しながら歴史的に検討し論じる場として、本シンポジウムを設定することにした。

まず、金井報告では、合衆国の建国時にはどのような公共空間が生じたのか、そしてその後シヴィックな性質を持つとされるナショナリズムがどのように生成されていったのかについて論じられることになる。次に、中條報告では、その公共空間から弾き出されていたマイノリティの社会運動によって、公共空間における自由・平等といった概念がどのように捉え直されていったのか、また、それは新たな「国民化」につながっていったのかといった点について検討が加えられるだろう。さらには、公共空間と承認を求める政治との関係、市民権の変質などの、より大きな論点についても言及がなされる。

また、大津留報告では、これらの合衆国内でのナショナリズムと公共性についてだけでなく、合衆国が国際関係における公共性をどのように想定した上で、対外関係を取り結んできたのかについての考察もなされるであろう。同時に、国内における動きと国際空間での合衆国の行動との関係という重要な点についても論じられることになる。

これらの報告に対する、大澤氏による社会哲学的観点からのコメントと、多くの方の議論への参加とによって、本シンポジウムのアメリカ合衆国のナショナリズムと公共性をめぐる歴史的分析和議論とが、「普遍性」を標榜する現在の合衆国政府の言説と行動とに対抗しながら、これからの公共性を構想してゆくのに資することを期待したい。

報告者

金井光太郎（東京外国語大学）

「合衆国建国期のネーション像」

中條献（桜美林大学）

「公民権運動・国民統合・ナショナリズム」

大津留智恵子（関西大学）

「国際秩序形成にみるシヴィック・ナショナリズム神話」

司会：樋口映美（専修大学）

コメンテーター：大澤真幸（京都大学）

12:30 昼食休憩

シンポジウム 3 「アメリカの占領と反米・親米の諸相」 14:00～16:30

アメリカによるイラク攻撃のあと、1年余の間続いたイラク占領統治は困難を極めた。2004年6月28日をもって暫定占領当局からイラク暫定政権へと一応の主権移譲は為されたものの、占領当初アメリカのブッシュ政権が大義として掲げた「民主化」の成果は、未だ確認しがたい。このような現状を踏まえ、本シンポジウムではアメリカの過去の占領政策を再検討する。

第二次世界大戦後のアメリカによる日本や西ドイツに対する占領は、旧敵国に民主主義をもたらした——このような歴史認識がアメリカでは一般的であろう。こうした「占領の成功」の物語は、「アメリカ的価値観の普遍性」の証明となり、その後のアメリカ外交政策の大義を支える重要な支柱ともなってきた。現在のブッシュ政権もまた、イラク占領を開始するにあたって、日独における成功の物語を何度も繰り返した。しかしその物語の根拠となるべき過去の事例では、安定的な占領統治や安全保障のためにいかなる装置や施策を導入し、いかなる被占領国側の反応を生み出したのか。つまり、成功の物語自体が疑義の対象となろう。

本シンポジウムでは、日本、西ドイツ、韓国の占領の事例を取り上げる。高橋博子氏は、被爆問題と原爆情報操作をめぐるアメリカの政策と日本側のナショナリズムについて考察する。深川美奈氏は、西ドイツ占領期におけるアメリカの非ナチ化政策と西ドイツ側からの反発について論ずる。長田彰文氏は、韓国における米軍基地の存在をめぐる繰り返されてきたアメリカ側の基地政策と韓国側からの親米・反米感情の織りなす微妙な関係について検討する。いずれも被占領国それぞれの対米ナショナリズムの琴線に触れる問題であり、被占領国の側からの対米依存や対米反発の諸相が照射されよう。

アメリカ外交史の分野では、冷戦終結後に旧共産圏の史料公開が進展していることにも影響を受け、アメリカ以外のアクターの視点からの外交史分析が進みつつある。本シンポジウムの報告者3氏も、それぞれ日本側、西ドイツ側、韓国側の史料も駆使して研究を重ねられており、「他者」の視点からアメリカのプレゼンスが問い直されよう。また、同日午前のシンポジウムと合わせて、ナショナリズムをアメリカ国内外からより包括的に再検討することが可能となれば幸いである。

報告者

高橋博子（広島市立大学）

「日本占領期の原爆情報統制」

長田彰文（上智大学）

「戦後米韓関係における現実主義と理想主義—韓国の対米協調と対米ナショナリズム」

深川美奈氏（東京大学大学院）

「アメリカ占領下ドイツにおける非ナチ化政策と再教育・再方向付け政策」

司会：中野聡（一橋大学）

コメンテーター：西崎文子（成蹊大学）

17:00 次年度年次大会開催地の報告、会計報告ほか

大会会場地図:186-8601東京都国立市中2-1 一橋大学東キャンパス

会場:東キャンパスの 32 番の建物(東 2 号館)の 2 階 2201 教室

懇親会会場:東キャンパスの 41 番の建物(マーキュリータワー)の 7 階マーキュリーホール



宿泊施設のご案内

宿泊に関しては各自で手配下さいようお願い申し上げます。大会会場はJR国立駅が最寄り駅となりますが、参考までに近隣のJR沿線の宿泊施設をご紹介します。

a)立川駅周辺

立川グランドホテル(JR 立川駅徒歩2分)042-525-1121

<http://www.khgrp.co.jp/tachikawa/> 8000 円から

パレスホテル立川(JR 立川駅徒歩3分)042-527-1111

<http://www.palace-t.co.jp/> 9450 円から

昭和ホテル(JR 立川駅徒歩2分)042-522-1133

ビジネスホテル小沢屋(JR 立川駅徒歩2分)042-523-0388

ビジネスホテルクボタ(JR 立川駅徒歩3分)042-522-1122

ビジネスホテルほまれ(JR 立川駅徒歩5分)042-523-0588

<http://www.hotelhomare.co.jp/>

b)国分寺駅周辺

ビジネス千成ホテル(JR 国分寺駅徒歩3分)042-325-5588

ビジネスホテルダイワ(JR 国分寺駅1分)042-324-5221

<http://www.hotel-daiwa.co.jp>

ホテルメッツ国分寺(JR 国分寺駅徒歩0分)042-328-6111

<http://www.ktb.co.jp/hotel/kokubunji/index.html>